

令和2年度 天理小学校運営計画

評価 A:きちんとできている B:ほぼできている C:あまりできていない D:全くできていない  
 評価欄の基準は、A+Bが95%以上→A 70%以下→C

	重点目標		目標達成の方策	評価	成果と課題
信条教育	将来立派なよふぼくなるための基本的な素養を身につけさせる	1	「めざす教職員像」を意識しながらいっそうの成人を目指して自らの信仰を深める。	B	「めざす教職員像」を常に心に置き、更なる成人を目指したい。今までできていることを粘り強く継続しつつ、それぞれが信仰の上に地道な努力を重ねていきたい。
		2	自身の信仰姿勢を児童に映すよう心掛けるとともに、教えに基づく学級経営・学校運営を目指す。	B	教職員自身が自教会の参拝や各種行事等に積極的に参加し、そこで学び得たことを子ども達に語り伝えることを通して、より一層謙虚な気持ちで、信仰実践を重ねていく。
		3	信条の授業充実を目指す。信条の授業をはじめ、あらゆる機会を通して親神様の思し召し、教祖の親心を児童に伝える。	B	信条の授業を組み立てる際、子ども達により伝わるように様々な工夫を凝らしている。以前作成した「信条授業案集」やその他の教材も活用して、更なる充実を図っていきたい。
		4	朝の学校参拝を児童と共に心を込めてつとめることで、勇んで一日の学校生活を送るようになる。	C	今年度は新型コロナウイルス感染症のため、学校参拝は中止となった。しかし、このことから改めて学校参拝の尊さ・大切さに気付かされた。今後はでき得る参拝の形を模索しながら、お互いに陽気ぐらしへと歩みを進めていきたい。
児童育成・生活指導	生きるための力を高めさせる	5	水泳、持久走や縄跳び、さらに運動会をはじめ様々な学校行事を通して、体と心を鍛えさせる。	B	全国一斉の休校措置の影響で、水泳の授業はできなかった。しかし、運動会を全校体育に替えて実施したり、持久走に取り組む11・12月を縄跳びに代えたりしながら、子ども達の心と体の鍛錬に努めた。
	生活のきまりを徹底させる	6	きちんとした挨拶ができるよう常に指導を心掛ける。とりわけ来校者への挨拶を徹底させる。	B	従来から登下校をはじめ様々な場面で、挨拶ができない姿が指摘されてきた。しかし、昨年・一昨年と着実に評価が上がってきている。これからも大人である教職員自身が子ども達のお手本となるような勇んだ挨拶を実践し、子ども達の心に映していきたい。
		7	「学校のきまり」を繰り返しかし確認することで、落ち着いた学校生活を送るよう導く。	A	きまりを守ることで、自分自身が守られることを念頭に指導にあたってきた。今後も常日頃から「学校のきまり」の確認を意識し、共通のものさしで子ども達の指導にあたっていきたい。
		8	校内での規律正しい生活に加え、公共の場での立ち居ふるまいについても重視して指導する。	B	挨拶と同様に昨年、一昨年から少しずつ数字は上がってきているが、決して満足のいく状況ではない。校外学習や、社会科見学等で校外へ出かけるときに、事前に子ども達に注意すべき点を考えさせ、それらを守らせるように指導してきたい。
	ものを大切にさせる	9	学用品をはじめ給食についても感謝の心をもって粗末にしないよう指導をする。	A	このことは常々信条教育の根幹にかかわることであると肝に銘じて指導にあたらなければならない。身の回りのすべてのものは、親神様からのかりものであることを胸において、お互いに感謝の心で生活していきたい。
	相手の立場を認め励まし合い助け合う温かな学校づくりを目指す	10	お互いがしっかり励まし合い、助け合うことによって徳分を磨かせる。そのことを通して学校に温かな雰囲気をつくる。	A	天理教少年会員のちかひの中に「互いにたすけあって、立派なよふぼくに育ちます」とあるように、どんなにつらいときにも相手を思いやり、励ましや助け合いの心で接することができるよう、今後も子ども達に伝えていきたい。
	問題行動の未然防止と速やかな対応を行う	11	子どもの問題行動を未然に防ぐため、小さなサインを見逃さず速やかに対処する。そのために教育相談・いじめ・不登校対策委員会をしっかりと機能させる。	A	各学期ごとの生活アンケートと、担任チェックカードで子ども達のサインを見逃さないように努めている。それらを実施した後も、アンケート結果や数値に重きを置くのではなく、児童一人ひとりの話にしっかりと耳を傾けることを大切に今後も取り組んでいきたい。
いじめ問題への対応をきちんとする	12	いじめの原因、背景、具体的な指導のあり方などについて、さまざまな場で教職員の共通理解を図る。	A	近年、これらの項目で高い評価となっているが、油断することなく、一つひとつの事例に向き合っていかなければならない。今後は、教育相談・いじめ・不登校対策委員会に、より多くの情報をあげ、教職員で共有し速やかに対処できるように心がけたい。	
児童の安全対策と交通安全指導を徹底する	13	児童の危機回避能力を養う避難訓練や交通パトロールによる安全指導を定期的に行う。	A	コロナ禍であったため、例年に比べて十分なパトロールや訓練は実施できなかった。今後も防犯・防災の意識を常に持って、対処していきたい。	
学習指導	基礎・基本を確実に習得させる	14	授業の取り組みを中心にして、基礎・基本を確実に習得できるよう指導に力を注ぐ。	A	年度当初の一斉休校で、学力の遅れが心配されたが、保護者を通じて課題を配付・回収したり、学年ごとに学習動画を配信したりした。それらのことは全て初めての試みであるにもかかわらず、教職員が一丸となって対処できたことは大きな収穫であった。
	個に応じた指導を行う	15	児童の実態に添って、教材や指導法に工夫を凝らし、合わせて個々の学習状態に応じて学力の伸長を図る。	A	各授業者は、授業中はもちろんのことノートや提出物等に細かく目を通すことで、児童のわずかな変化に気づくように努めている。労力を要することではあるが、個々の学習状況に応じるためには大事な作業となる。今後もきめの細かい指導を続けていきたい。
		16	家庭とも連携を深めながら自ら学習出来るよう導く。	B	コロナ禍ではあったが、昨年度より数ポイントアップしているのは、休校期間中の一手一つの取り組みが評価されているものと考えられる。
研修	研修体制を充実させ、児童の学力向上を目指すとともに、児童の健全な育成を図る	17	研究テーマに添って、教員一人ひとりが研究授業・自己評価を行い、個々の授業力向上に努める。	B	来年度より本格導入される1人1台端末に向けて、従来の研修とは違ったテーマで県教育委員会や、業者のシステム担当者等と連携を取りながら、進めてきた。もちろん、今後も新しい教育の形に対応すべく更なる研修を重ねていかなければならない。
		18	特別支援教育や不登校に関する学習会（事例検討会）や講演会を計画的に実施し、児童一人ひとりの理解に努める。	B	コロナ禍のため、当初予定していた学習会や講演会の多くを中止せざるをえなかった。その中でも、不登校支援体制検討チームが発足し、来年度から動き出せるのは大きな収穫となった。
保護者連	保護者の信頼や期待に応える	19	保護者の要望や意見などに対して、電話・手紙のやりとりだけではなく、家庭訪問などよりきめ細かな対応を心がけ、保護者との信頼関係を築く。	B	行事としての家庭訪問・個人懇談会が中止となり、学級育友会も2学期に1回開かれただけで、保護者への連絡の機会は例年に比べ格段に減った。しかし、常日頃の体調面での連絡や、けが等の報告はできる限り細かく取るように努めた。